科目名	海外研修１							年度	2025
英語科目名	Overseas Training 1							学期	後期
学科・学年	ＡＩシステム科　１年次	必／選	選	時間数	30	単位数	1	種別※	実習
担当教員	魚住拓摩、石原美由紀	教員の実務経験		無	実務経験の職種		―		

【科目の目的】

この授業の主な目的は、学生に異なる文化や環境での国際的なビジネス経験を提供し、国際ビジネスに関連するスキルや洞察を開発することです。学生は国際的なビジネス環境でのコミュニケーション、戦略的思考、および問題解決能力を向上させ、異文化コンテキストでのリーダーシップスキルを発展させます。

【科目の概要】

この海外研修プログラムは、学生に異なる国や地域でのビジネス環境を探求する機会を提供します。学生は異文化環境でのビジネスプラクティスを学び、実際の企業や機関と連携してプロジェクトに取り組むことができます。授業では、国際ビジネスの基本原則、クロスカルチャルコミュニケーション、国際市場戦略、グローバルビジネス課題の解決など、幅広いトピックに焦点を当てます。学生は現地のビジネスリーダーやエキスパートとの対話、現地企業の訪問、国際プロジェクトの実施などを通じて、国際ビジネスに関する洞察を深めます。

【到達目標】

目標設定と学習計画
異文化理解と適応力
学習成果の達成
レポートとプレゼンテーション
チームワークとリーダーシップ

【授業の注意点】

研修をより有意義なものとするため、積極的な参加姿勢(質問など)を重要視している。社会への移行を前提とした受講マナーで参加すること。また、授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受講することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル35 優れている	レベル４ よい	レベル３ ふつう	レベル2 あと少し	レベル１ 要努力
到達目標 A	海外研修の学習目標を具体的に設定し、計画的に取り組んでいる	学習目標を設定し、計画的に取り組んでいる	学習目標を一部設定し、一定の計画を立てている	学習目標や計画が限定的であり、取り組みが不十分である	学習目標や計画が不明確で、取り組みがほとんど見られない
到達目標 B	異文化理解を深め、適応力を高めており、現地で円滑にコミュニケーションできる	異文化理解を高め、適応力を発揮し、現地でコミュニケーションが取れる	異文化理解を一部高め、適応力を示し、現地でコミュニケーションができる	異文化理解が限定的であり、適応力に欠け、コミュニケーションに支障がある	異文化理解や適応力が不足し、現地でのコミュニケーションが難しい
到達目標 C	学習目標に向けて優れた成果を達成し、学んだことを実践できる	学習目標に向けて良好な成果を達成し、実践能力がある	学習目標に向けて一定の成果を達成し、基本的な実践能力がある	学習成果が限定的であり、実践能力が不十分である	学習目標に向けてほとんど成果を上げず、実践能力がほとんどない
到達目標 D	研修内容を詳細にまとめたレポートを提出し、効果的なプレゼンテーションができる	研修内容をまとめたレポートを提出し、プレゼンテーションができる	レポートを提出し、プレゼンテーションが一部できる	レポートやプレゼンテーションが限定的であり、内容や表現が不十分である	レポートを提出せず、プレゼンテーションができない
到達目標 E	チームでの協力やリーダーシップを発揮し、共同プロジェクトを成功させている	チームで協力し、リーダーシップを示し、共同プロジェクトを成功させている	チームで協力し、一部リーダーシップを示している	チームワークやリーダーシップが限定的であり、プロジェクトが不十分である	チームでの協力やリーダーシップが不足し、プロジェクトが失敗している

【教科書】

無し

【参考資料】

無し

【成績の評価方法・評価基準】

以下の事項を総合的に評価する。
・課題の提出状況、課題から判断する授業理解度、授業出席率、授業への参加態度

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	海外研修１	年度	2025
英語表記	Overseas Training 1	学期	後期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	海外研修の概要と目標	海外研修の概要を理解し、研修の目標を設定する	1	海外研修の重要性	海外研修の重要性を理解している	3	
			2	目標の設定	海外研修の目標を設定できる		
			3	文化の理解	海外の文化を理解している		
2	目的地の選定と予算作成	研修先の選定基準を学び、予算の作成方法を習得する	1	研修先の選定	研修先の選定ができる	3	
			2	予算の作成	予算の作成ができる		
			3	資金調達	資金調達の計画ができる		
3	渡航準備と法的事項	渡航に必要な準備と法的事項を理解し、安全な海外滞在の計画を立てる	1	パスポートとビザの取得	パスポートとビザの取得ができる	3	
			2	旅行保険	旅行保険について理解している		
			3	法的事項の把握	研修先の法的事項を理解している		
4	異文化コミュニケーション	異文化でのコミュニケーションスキルを向上させ、誤解を防ぐ	1	異文化コミュニケーションの基本	異文化コミュニケーションの基本を理解している	3	
			2	文化的感受性	文化的感受性を理解している		
			3	コミュニケーションの誤解	異文化コミュニケーションの誤解について理解している		
5	研修計画の詳細化	研修のスケジュールとアクティビティを詳細に計画し、実施計画を策定する	1	研修スケジュール	研修スケジュールを作成できる	3	
			2	アクティビティの選定	アクティビティの選定ができる		
			3	安全対策の詳細化	安全対策をより理解している		
6	研修先での生活と安全対策	研修先での生活や安全に関する知識を習得し、安全対策を講じる	1	食事	異なる環境での生活への適応、安全対策の実施ができる	3	
			2	健康管理			
			3	緊急事態への備え			
7	異文化体験と学習	研修先での異文化体験を通じて学び、成長の機会を追求する	1	異文化体験の価値	異文化体験の価値を理解している	3	
			2	学びの抽出	研修先での学びを抽出できる		
			3	成長評価	研修先での成長を評価できる		
8	インターンシップとプロジェクト	研修先でのインターンシップやプロジェクトを通じて実践的なスキルを磨く	1	インターンシップ	インターンシップに参加し実務経験を獲得する	3	
			2	プロジェクト	プロジェクトマネジメントができる		
			3	成果の報告	成果の報告をすることできる		
9	研修成果の発表	研修成果を発表し、他の学生と共有するプレゼンテーションスキルを向上させる	1	研修成果	研修成果をまとめることができる	3	
			2	プレゼンテーション(1)	研修のプレゼンテーションができる		
10	海外研修の振り返りと評価	海外研修を振り返り、習得したスキルと成長を評価する	1	海外研修の振り返り	海外研修の振り返りをすることができる	3	
			2	成果の評価	成果を自己評価できる		
11	海外研修のキャリアへの活用	海外研修で得たスキルをキャリアに活かす方法を学び、将来への展望を明確にする	1	スキルのキャリアへの適用	研修で得たスキルをキャリアに生かす方法を理解している	3	
			2	国際的なキャリアの機会	研修で得たスキルをどう国際的なキャリアに生かす方法を理解している		
			3	将来の計画(1)	研修で得たスキルをどう将来に生かすか理解している		
12	海外研修報告書の作成	海外研修報告書を作成し、研修の成果を文書化する	1	報告書の作成	海外研修の報告書を作成することができる	3	
			2	成果の文書化	成果を文書化することができる		
13	海外研修報告書のプレゼンテーション	海外研修報告書をプレゼンテーションし、他の学生に成果を共有する	1	プレゼンテーション(2)	報告書をプレゼンテーションすることが出来る	3	
14	海外研修の持続可能性と倫理	海外研修の持続可能性と倫理的な側面を考え、社会的責任を強調する	1	持続可能性の視点	持続可能性の視点を理解している	3	
			2	倫理的な考慮	倫理的な考慮を理解している		
			3	社会的責任の重要性	社会的責任の重要性を理解している		
15	海外研修の振り返りと将来への展望	海外研修を振り返り、将来への展望を明確にし、個人の成長を評価する	1	振り返り	海外研修を振り返る	3	
			2	将来の計画(2)	研修を通して将来の計画を明確にできる		
			3	自己評価	研修を通して自己評価できる		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等